西濃農林事務所の普及活動状況（令和８年１月）

今月の重点活動

■指導農業士　西濃ブロック研修会を開催（１月23日）

大垣養老高等学校において、西濃ブロック指導農業士会研修会が開催された。研修会では、西濃地区と揖斐地区の指導農業士が大垣養老高等学校を訪問して農業教育現場の見学を行うとともに、農業青少年の育成について教育機関との意見交換会を行った。

近年、就農を希望する卒業生が少なくなっている状況であるが、農家巡回学習会や出前講座、インターンシップを通じて指導農業士会との連携を強化し、今後も継続して農業青少年の育成を図ることを確認した。

【研修会の様子】

農林事務所は、農業青少年の育成のため今後も指導農業士会の活動を支援していく。

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■新規就農者　青年等就農計画認定書交付式（１月８日）

安八町の就農予定者に対して、青年等就農計画の認定書交付式が安八町役場で行われた。

式では、認定者の紹介後町長より激励の言葉があり、認定書の授与が行われた。本人からは、今後の営農方針だけでなく、経営を安定させるための継続支援のお願いなどがあった。

認定者は、町内の担い手農家からの第３者事業継承で新規就農する予定であり、町やぎふアグリチャレンジ支援センターなど関係機関で支援してきた。農業普及課では、今後も事業継承や新規就農の支援を行っていく。

【認定証交付式の様子】

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■水稲　ＧＡＰの取組支援（１月 14 日）

海津市平田町の担い手組織である(有)平田パイロットは、ぎふ清流ＧＡＰに取り組んでいる。同社の経営目標として、雇用者にとってより働きやすい職場になるようＧＡＰを通じた職場環境の改善に取り組むとともに、自社流通米のぎふ清流ＧＡＰロゴマークの取得も目指している。

ぎふ清流ＧＡＰは令和６年度から国際水準ＧＡＰに準拠し、前回評価時から追加された評価項目もあるため、同社事務所にて追加項目と前回指摘があった箇所を中心に、改善ができているかチェックを行った。

農林事務所では、今後も継続してＧＡＰ支援を行っていく。

【農場評価の確認の様子】

■水菜　有機農業推進プロジェクトチーム会議の開催（１月 20 日）

農林事務所は、ＪＡにしみの神戸集出荷センターにおいて、有機農業推進プロジェクトチームの第２回会議を開催した。営農モデル実証ほ生産者・ＪＡ・神戸町役場・県農産園芸課が出席し、今年度の取り組み結果と来年度の計画について話し合いを行った。

今年度は、地力向上を目的に、緑肥作物「ソルゴー」を栽培してすき込み、その効果を検討した。また、水菜で有機栽培が可能な目処がたったため、来

【有機の水菜】

年度は、有機ＪＡＳ認証取得に向けた取り組みや、地域の主力品目の小松菜で有機農業実証を開始することになった。

農林事務所では、引き続き有機農業の推進を支援していく。

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■いちご　データ活用視察研修の実施（１月７、８日）

いちご栽培の向上を目指すため、「いちごデータ駆動型農業の実践展開支援事業」を活用し、栽培中の環境及び生育データの取得、解析結果の利用が進められている。この一環として、県内各地域の本事業担当者による長崎県先進地視察研修が行われた。

【視察研修の様子】

１月７日は現地農家の圃場にて栽培中データの解析結果検討会が行われ、同県いちご農家はパソコンで遠隔参加した。同県は離島が多く、県内他産地との比較を実地で行うことが困難であるが、各数値のデータ化、グラフ化により状況を明確にし、リモート方式で広範囲の生産者が自分と他者の圃場の比較を可能にしていた。８日には同県担当者と意見交換会を行い、データ利用の問題点などを検討した。

農林事務所では、管内の施設内環境、栽培データを今後の管理に効果的に活かせるよう、日頃の巡回活動で可能なデータ収集とその利用に留意していきたい。

■きゅうり　半促成・促成栽培現地巡回及び栽培研究会の開催（１月 13 日）

ＪＡにしみの海津胡瓜部会は、半促成・促成栽培研究会をＪＡにしみの海津中支店で開催した。研究会前に部会技術係、役員、希望生産者、種苗会社、ＪＡ、農林事務所等関係者でほ場巡回を行い、９月以降定植の促成栽培及び 12 月５日から定植が始まった半促成栽培の生育状況について確認した。

【ほ場巡回の様子】

12 月後半以降は寡日照傾向で、やや生育遅延傾向にあるが、概ね生育は順調で、半促成では１月４日から出荷が始まっている。ただし、一部では活着不良やうどんこ病、ホコリダニの発生が確認された。

研究会では、種苗会社から生育や品種特性を踏まえた栽培管理方法についての説明、青年部からは群馬県視察報告が行われた。西濃農林事務所からは気象状況、病害虫対策、ＧＡＰ、厳寒期の管理について説明を行った。今後、農林事務所では厳寒期から春先に向けての栽培管理について支援していく。

■なし　盛土式根圏制御栽培のせん定講習会を開催（１月９日）

大垣市の（株）ＤＩＢ、海津市の（株）ファーム・コタニアにおいて、農業経営課の農業革新支援専門員を講師に招き、盛土式根圏制御栽培のせん定講習会を行い、両法人の役員など６名が参加した。

【講習会の様子】

農林事務所からは、なし生産の現状と省力樹形の普及導入状況について情報提供を行った。農業革新支援専門員からは、（株）ＤＩＢの植付け 10年目、（株）ファーム・コタニアは４年目となったことで、それぞれの課題に応じたせん定の実演が行われた。

今回の講習会では、せん定技術の向上だけでなく、同じ栽培法に取り組む両法人の交流が図られ、大変有意義な会となった。

農林事務所では今後、（株）ＤＩＢには多収を目指した支援を、（株）ファーム・コタニアには、昨年多発した果肉障害対策の支援を行っていく。